

## 読書感想文におすすめの本

### Part. 1 青空文庫

地域の図書館が完全閉館している・本屋にも行けない・家に読書感想文にぴったりの本が無いという人には、インターネットの電子図書館「青空文庫」の本をおすすめします。古今東西の名著が揃っているので、読みごたえは折り紙付きです。その青空文庫の中から、先生方のおすすめを紹介します。

※書名・著者名の横の【 】内は書名・著者名のよみがなです。検索するときの参考にしてください。

#### 国語科 渡辺裕一先生

書名	藪の中【やぶのなか】
著者名	芥川龍之介【あくたがわりゅうのすけ】
おすすめのポイント・感動した場面等	
「真実は一つじゃない!!」名探偵コナンの台詞ではありません。この小説を読むと、その言葉の意味が分かります。一年生のみなさんは、同じ作者の「羅生門」を授業で学習すると思いますが、名監督黒澤明の映画「羅生門」はこの藪の中を原作としています。	

書名	恩讐の彼方に【おんしゅうのかなたに】
著者名	菊池寛【きくちかん】
おすすめのポイント・感動した場面等	
皆さんは菊池寛という作家を知っていますか？芥川龍之介の親友で、彼の死後に芥川賞、直木賞を創設した出版社の文芸春秋社の社長でもあった小説家です。「恩讐の彼方に」は、江戸時代を舞台にしていますが、人間の罪と罰という問題に取り組んだ作品です。ラストの場面は感動的です。	

書名	夢十夜【ゆめじゅうや】
著者名	夏目漱石【なつめそうせき】
おすすめのポイント・感動した場面等	
お札にもなった明治の文豪、夏目漱石の異色作です。10個の夢のお話しが、互いに関連なく綴られています。一年生のみなさんの国語総合の教科書には、第一夜と第六夜しか載っていませんが、十夜全部読んでみるといいですよ。因みに十人の監督が漱石の夢十夜から着想して作った映画「ユメ十夜」(2007年)も併せて観ると面白いです。	

書名	グスコーブドリの伝記【ぐすこーぶどりのでんき】
著者名	宮沢賢治【みやざわけんじ】
おすすめのポイント・感動した場面等	
現代文Bの教科書に載っている「永訣の朝」の作者・宮沢賢治は、童話作家としても有名です。農業技師でもあった彼は、生前文学の世界ではほとんど無名であったそうです。この作品は、そんな賢治の世界観がよく現れていると思います。アニメにもなりました。	

書名	高瀬舟【たかせぶね】
著者名	森鷗外【もりおうがい】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 森鷗外は、夏目漱石と並ぶ明治の文豪の一人です。国語の教科書の定番と言ったらこの「高瀬舟」と「舞姫」です。「舞姫」は文語体で書かれているので、君たちにとっては古典に近い文章でとっつきにくいので、「高瀬舟」の方を勧めます。「安楽死」や「足るを知る」と言った問題など、現代に通じるテーマを描いています。	

書名	名人伝【めいじんでん】
著者名	中島敦【なかじまあつし】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 夭折した天才作家・中島敦の文章で最も格調高いのは、「山月記」だと思いますが、内容が理解しやすいという点ではこの「名人伝」が一番でしょう。弓道部の人には必読です。因みに中島敦の人となりをも熱く解説したユーチューバー芸人の中田敦彦の「youtuber 大学」を見て予習しておくとも、より作品が面白くなるでしょう。	

書名	セメント樽の中の手紙【せめんとだるのなかのてがみ】
著者名	葉山嘉樹【はやまよしき】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 国語の教科書にも載っている定番の短編小説です。(本校の教科書には載っていません)私事ですが、学生時代に鉄工所でアルバイトをしていた時期があります。その工場の敷地内に、コンクリートを扱う巨大なパワーショベルが置いてあり、天気の良い休憩時には、その中に入ってよくうたたねをしていました。固まったコンクリートまみれの鋼鉄のショベルは、まさにセメント樽といった感じで、小説の主人公の恋人の気持ちに浸ったものでした。 戦前の労働者の権利も守られない時代に書かれた小説ですが、いまの日本の労働環境に似ているという人もいます。読んでみて自分で判断してほしいです。 同じプロレタリア文学としては、小林多喜二の「蟹工船」もありますから、こちらも併せて読んでみてください。	

書名	怪談 「耳無芳一の話」ほか【かいだん みみなしほういちのはなし ほか】
著者名	小泉八雲【こいずみやくも】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 小泉八雲は、ギリシア生まれで、明治時代に来日して日本に帰化した作家です。本名をラフカディオ・ハーンと言います。明治村には、彼が避暑に使った家が移築されています。 コロナ騒動が終息したら、ぜひ行ってみてください。 「怪談」は現在で言うところのホラーです。日本語を母国語としない八雲が、日本各地に伝わる怪談を集めて書いたのが、この「怪談」です。 彼の手にかかると、古い怪談もどこかエキゾチックな香りがするようになります。日本人の情緒に訴える、優れた読み物だと思います。 紹介した「耳無芳一の話」以外にも短いお話がたくさんありますから、ぜひ読んでみてください。でも決して夜中には読まないでください。	

書名	最後の一枚の葉【さいごのいちまいのは】
著者名	オー・ヘンリー【オー ヘンリー】
<p><b>おすすめのポイント・感動した場面等</b></p> <p>オー・ヘンリーは19世紀の末に活躍したアメリカの作家です。日本で言うと、明治時代に当たりますが、まったく古さを感じません。彼は短編小説の名手として知られ、ストーリー面白さには定評があります。彼の遺した作品群は、現代で通じるものがあり、たびたび映画やテレビドラマ、CMなどにも使われています。</p> <p>青空文庫には収録されていませんが、「取り戻された改心」もおすすめです。</p> <p>このお話を日本で映画にしたら、主人公は少し前なら、キムタクがはまり役でしょうか。今なら千葉雄大、はたまた吉沢亮が似合うかなと考えを巡らしてみるのも楽しいです。</p>	

書名	老人と海【ろうじんとうみ】
著者名	アーネスト・ヘミングウェイ【ヘミングウェイ アーネスト ミラー】
<p><b>おすすめのポイント・感動した場面等</b></p> <p>夏目漱石の「吾輩は猫である」のように、日本の誰もがその名前を知っているけど、実は読んだことがない本って、意外とたくさんありますよね。</p> <p>「老人と海」は、アメリカの国民的小説家の代表作でありながら、まだ読んだことのないあなた、時間のあるこの時期にぜひ読破することをお勧めします。</p> <p>正直感想は書きづらいと思います。しかし名作を読み切ったという充実感が残ると思います。</p>	

## 国語科 海老千鶴先生

書名	赤い蠟燭と人魚【あかいろうそくとにんぎょ】
著者名	小川未明【おがわみめい】
<p><b>おすすめのポイント・感動した場面等</b></p> <p>小川未明は童話で有名です。人魚が登場します。短く、昔の話なので語り口は渋いですがけれども、童話なので読みやすいほうです。ただし、ハッピーエンドではありません。あれとあれを足して割ったようなお話です。さて、なんでしょう。</p>	

書名	富嶽百景【ふがくひゃっけい】
著者名	太宰治【だざいおさむ】
<p><b>おすすめのポイント・感動した場面等</b></p> <p>「富嶽」とは、日本一の山、「富士山」のことです。主人公（だいぶ、ひねくれ者。太宰治自身がモデル。）が人生の様々な局面で「富士山」をみて、好きになったり嫌いになったりしていきます（なんだそりゃ）。ほぼ実話だと思われます。失恋あり、恋愛成就あり、登山あり、おばあちゃんあり、月見草あり。</p> <p>さて、「月見草」が象徴するものとは、なんでしょう。</p>	

書名	変身【へんしん】
著者名	カフカ・フランツ
<p><b>おすすめのポイント・感動した場面等</b></p> <p>グレゴール・ザムザさんがある朝目覚めたらものすごく気持ちの悪い生物に変身しちゃって、理由も全くわからないんですけど元に戻らないし、という理不尽な話です。先に言っておきますが、謎解きもなく、ひたすら理不尽です。しかし、世界的に有名な作品です。</p> <p>なぜこれが世界的に読み継がれているのか。考察してください。</p>	

書名	①坊っちゃん【ぼっちゃん】 ②こころ
著者名	夏目漱石【なつめそうせき】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> ① 坊っちゃん 「親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。」という有名フレーズから始まる、爽快な作品。以前、嵐の二宮くんが主人公でドラマが制作されましたが、非常によかった。田舎の中学校で教鞭をとる主人公「坊っちゃん」と男子中学生たちとのバトル、いけ好かない「赤シャツ」たちとのあれやこれやをお楽しみください。 私は清（きよ）が大好きで、何度読んでも最後泣きます。え、泣かないかな？ ② こころ 新3年生は読むべし。なぜ私とKがあのようなことになったのか、人格形成部分が紐解かれますし、冒頭から「遺書」へ向かう緻密な伏線がちりばめられた作品だったことがわかります。	

書名	学問のすすめ【がくもんのすすめ】
著者名	福沢諭吉【ふくざわゆきち】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> あなたがリッチなとき、お財布の中に出現する人です。 「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」は有名ですね。1872年に執筆された、「□□はこうあるべきだね」という見識が、2020の今もじゅうぶん納得できるというのは、すごいことですよ（もちろんすべてではないけれど）。少しずつの章立てになっているため、昔の言葉で書かれていますが、チャレンジしやすいです。辞書ひきながら読めば、必ず賢くなります。	

このふたつはあんまりおすすめはしませんが……

<推理小説な好きな人向け> ~真実はいつもひとつ!~

書名	シャーロックホームズシリーズ
著者名	ドイル・アーサー・コナン
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 名前のほうです。 「赤毛連盟」「踊る人形」「まだらの紐」「緋のエチュード（緋色の研究）」など。ホームズの素行（阿片をはじめ、いろいろと）については、昔の作品なので目を瞑ります。よい子はマネしないでください。	

書名	二銭銅貨【にせんどうか】
著者名	江戸川乱歩【えどがわらんぼ】
<b>おすすめのポイント・感動した場面等</b> 名字のほうです。 日本の探偵小説の先駆者・乱歩は、推理というよりは、怪奇小説の類が多く、気障で気持ちの悪くなる話ばかりです。ちなみに、当時の5万円は、現代の価値に換算すると、おそらく数千万はいきます。国内の暗号系の走りです。面白いと感じる人は、変わっています。 このペンネームの由来は、「ポー」という作家です。世界初の推理小説を書いた人です。トリックは、荒唐無稽です。	